

現代韓国語の対称用言の文構造

金, 亨貞
九州大学大学院言語文化研究院

<https://doi.org/10.15017/9460>

出版情報 : 言語文化論究. 23, pp.111-134, 2008-02-28. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン :
権利関係 :

現代韓国語の対称用言の文構造

金 亨 貞

1.はじめに

本稿では、コーパスに実際に現れた用例の分析を基にし、現代韓国語の対称用言が補語と結合して作る文構造について記述することを目的とするものである。

「対称用言」とは、「싸우다 (戦う・喧嘩する)」「만나다 (会う)」「마주치다 (合う・合わせる)」「헤어지다 (別れる)」「결혼하다 (結婚する)」「관계되다 (関係する)」「바꾸다 (替える)」「나누다 (分ける)」「비교하다 (比較する)」「구별하다 (区別する)」「다르다 (異なる)」「같다 (同じだ)」「비슷하다 (似ている)」などを指す。対称用言が述語になる構文は、下記の(1)、(2)のように三つの文構造を成しうる。

- (1) a. 철수가 영희와 결혼했다. (チョルスがヨンヒと結婚した。)
- b. 철수와 영희가 결혼했다. (チョルスとヨンヒが結婚した。)
- c. 그들이 결혼했다. (彼らが結婚した。)
- (2) a. 철수가 영희와 자리를 바꾸었다. (チョルスがヨンヒと席を替えた(=席を替わった)。)
- b. 철수와 영희가 자리를 바꾸었다. (チョルスとヨンヒが席を替えた。)
- c. 그들이 자리를 바꾸었다. (彼らが席を替えた。)

(1)aは「결혼하다 (結婚する)」という述語が「철수 (チョルス)」という動作主と「영희 (ヨンヒ)」という別の動作主をそれぞれ「이」格(主格)と「와」格(共同格)の必須補語として要求している構造である。(2)aは述語が「이」格と「와」格で実現される「철수 (チョルス)」と「영희 (ヨンヒ)」という二人の動作主、さらに「을」格(対格)で具現化される「자리 (席)」という内容項をとって「바꾸다 (替える)」という行為を完成させる意味構造であると解釈される。これに対し、(1)bと(2)bは複数の動作主を要求する「결혼하다 (結婚する)」と「바꾸다 (替える)」の意味特性により、接続助詞「와 (と)」によって作られた接続名詞句の「철수와 영희 (チョルスとヨンヒ)」が述語の複数主語として現れたものである。さらに(1)cと(2)cはその複数主語が代名詞「그들 (彼ら)」で表現されたものである。

本稿では、(1)a、(2)aのように「와」項が文の必須補語として現れる構造のみを対象とする。¹

上記の「NP1 이 NP2 와 V (NP1がNP2とV)」「NP1 이 NP2 와 NP3 을 V (NP1がNP2とNP3をV)」のような統語構造においては、述語になる対称用言が「NP2 와 (NP2と)」を、「NP1 이 (NP2が)」または「NP3 을 (NP3を)」とともに文の必須補語として要求する。これに関連する対称用言の特徴を整理すると、次のとおりである。

まず、動詞または形容詞の論理・意味構造が完成するためには、「NP 와 (NP と)」が意味的項かつ統語的補語として必須である。二つめに、「NP 와 (NP と)」が文中で相互作用関係にある「NP 가 (NP が)」または「NP 를 (NP を)」と有情性の素性をともにする場合、「NP 와 (NP と)」は該当する文の構造において「NP 가 (NP が)」または「NP 를 (NP を)」と同一の意味役割 (semantic role) を与えられる。² すなわち、「철수가 영희와 싸운다 (チョルスがヨンヒと喧嘩する)」という文における「영희와 (ヨンヒと)」は「철수가 (チョルスが)」と同じ動作主として、「철수는 녹색을 노란색과 구별하지 못한다 (チョルスは緑色を黄色と区別できない)」における「노란색과 (黄色と)」は「녹색을 (緑色を)」と同じ対象であると解釈できる。三つめに、「NP 와 (NP と)」は文中で相互作用関係にある「NP 가 (NP が)」または「NP 를 (NP を)」と論理・価値的な側面において「対称性 (または等価性)」を帯びる。

- (3) a. 철수는 영희와 좋아하다. (チョルスはヨンヒと好む=チョルスはヨンヒが好きだ.)
 a'. 철수는 영희를 좋아하다. (チョルスはヨンヒを好む.)
 b. 그 남자가 불의와 맞서 싸우다. (彼が不義と向き合って戦う.)
 b'. 그 남자가 불의에 맞서 싸우다. (彼が不義に向き合って戦う.)
 c. 그러나 정작 이 사건을 담당하고 있는 검찰의 태도는 이런 국민적 분위기와 크게 동떨어져 있는 듯한 느낌이다. (しかし、実際にこの事件を担当している検察の態度は、このような国民的雰囲気と大きくかけ離れているような感じだ.)
 c'. 그러나 정작 이 사건을 담당하고 있는 검찰의 태도는 이런 국민적 분위기로부터 크게 동떨어져 있는 듯한 느낌이다. (しかし、実際にこの事件を担当している検察の態度は、このような国民的雰囲気から大きくかけ離れているような感じだ.)
 d. 집이 학교와 가깝다. (家が学校と近い.)
 d'. 집이 학교에서 가깝다.³ (家が学校から近い.)

すなわち、(3)a では「철수는 (チョルスは)」と「영희와 (ヨンヒと)」が互いに対等な価値を帯び、論理的に対称関係を成している。しかし (3)a' のように述語の「좋아하다 (好む)」がとりうる別の格に替えてみると、「영희를 (ヨンヒを)」は行為の対象になり、互いの均衡性が崩れる。このような現象は、(3)b-(3)d においても同様におきる。

本稿は、以上のような対称用言の統語的特徴を考察することを目的とする。特に、対称用言が実際の文でどのような文構造で現れるか、「와」格 (共同格) がとる先行要素としてはどのような範疇があるか、といった点を重点的に記述しようとするものである。

本稿で使用したコーパスは〈21世紀世宗計画現代韓国語コーパス〉(1000万文節)であり、このうち書き言葉コーパス約900万文節を土台に標本抽出 (sampling) を行い、約90万文節の研究用コーパスを構成した。⁴

研究用コーパスにおいて、本稿で対象とする対称用言の用例数は計1,847件あった。このうち対称動詞の用例が1,174件で、対称形容詞の用例は673件であった。⁵

2. 対称用言の文構造

対称用言の統語構造に関するこれまでの研究では、主に(1)に見られる「철수가 영희와 결혼했다 (チョルスがヨンヒと結婚した)」や「철수가 영희와 자리를 바꾸었다 (チョルスがヨンヒと席を替えた)」のような2種の構造について議論されてきた。しかし、本研究で1,847の用例を分析

した結果、対称用言の文構造は次の四つの類型に分けられた。各類型の特徴を整理すると、次のとおりである。

(4) 〈対称用言の文構造の類型〉

- ① 類型 1 – NP1 이⁶ NP2 와 V (NP1 が NP2 と V)
- ・項の特徴：NP1 と NP2 が対称関係
 - ・実現可能な文類型：NP1 이 NP2 와 V / (NP1 이) NP2 와 V、修飾節
 - ・例) 그들은 인간의 고뇌와 싸우고 있다. (彼らは人間の苦悩と戦っている。)/ 교육은 조각과 같다.⁷ (教育は彫刻と同じだ。)
- ② 類型 2 – NP1 이 NP2 를 NP3 과 V (NP1 が NP2 を NP3 と V)
- ・項の特徴：NP2 と NP3 が対称関係
 - ・実現可能な文類型：NP1 이 NP2 를 NP3 과 V / (NP1 이) NP2 를 NP3 과 V / NP1 이 (NP2 를) NP3 과 V / (NP1 이) (NP2 를) NP3 과 V、修飾節
 - ・例) 아무도 연극을 영화와 동일시하지 않는다. (誰も演劇を映画と同一視しない。)
- ③ 類型 3 – NP1 이 NP2 와 NP3 을 V (NP1 が NP2 と NP3 を V)
- ・項の特徴：NP1 と NP2 が対称関係、NP3 は内容項 (具体名詞、抽象名詞)
 - ・実現可能な文類型：NP1 이 NP2 와 NP3 을 V / (NP1 이) NP2 와 NP3 을 V / NP1 이 NP2 와 (NP3 을) V / (NP1 이) NP2 와 (NP3 을) V、修飾節
 - ・項の位置交代：‘NP1 이 NP3 을 NP2 와 V’ (NP1 が NP3 を NP2 と V) の構造も可能
 - ・例) 호텔이 신용카드사와 계약을 맺었다. (ホテルがクレジットカード会社と契約を結んだ。)
- ④ 類型 4 – NP1 이 NP2 와 NP3 이 V (NP1 が NP2 と NP3 が V)
- ・項の特徴：NP1 と NP2 が対称関係、NP3 は内容項 (具体名詞・抽象名詞)
 - ・実現可能な文類型：NP1 이 NP2 와 NP3 이 V / (NP1 이) NP2 와 NP3 이 V / NP1 이 NP2 와 (NP3 이) V / (NP1 이) NP2 와 (NP3 이) V、修飾節
 - ・項の位置交代：‘NP1 이 NP3 이 NP2 와 V’ (NP1 が NP3 が NP2 と V) の構造も可能
 - ・例) 나는 아빠와 이야기가 잘 통한다. (私はパパと話がよく通じる。)/ 1894 년 사건은 19 세기 중반의 민란과 격이 다릅니다. (1894 年の事件は 19 世紀半ばの民乱と格が違います。)

上の類型をもとに 1,847 の対称用言を分類した結果は、次のとおりである。対称動詞は 類型 1 – 類型 4 の全てが現れたが、対称形容詞は類型 1 と類型 4 のみが現れた。これは類型 2 と類型 3 には「음격 (対格)」項が含まれており、形容詞と共に現れることができないためである。形容詞・動詞ともに類型 1 が最も高い比率を示した。

| | 対称動詞 | | | 対称形容詞 | | |
|------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|
| | 項目数 (type) | 頻度 (token) | 対称動詞 内 比率 | 項目数 (type) | 頻度 (token) | 対称形容詞 内 比率 |
| 類型 1 | 199 | 745 | 63.5% | 31 | 549 | 81.6% |
| 類型 2 | 31 | 120 | 10.2% | — | — | — |
| 類型 3 | 25 | 145 | 12.4% | — | — | — |

| | | | | | | |
|----------------|---|-------|-------|----|-----|-------|
| 類型 4 | 5 | 10 | 0.9% | 11 | 124 | 18.4% |
| その他 (活用形制約) | 3 | 154 | 13.1% | — | — | — |
| 合計 | — | 1,174 | 100% | — | 673 | 100% |
| 対称用言全体頻度 | | | | | | 1,847 |

表 1. 対称用言の文構造類型

2. 1. 対称動詞の文構造

2. 1. 1. 類型 1 — NP1 이 NP2 와 V (NP1 が NP2 と V)

類型 1 に属する用例は次のようなものである。

- (5) a. 자신들의 그림자와 싸우는 우리들, 한 번쯤 생각해 볼 이야기가 아닌가?
(自身の影と戦う我々、一度くらいは考えてみるべき話ではないだろうか)
- b. 신앙이 언제나 지식과 일치하는 것은 아니지요.
(信仰はいつも知識と一致するものではないでしょう。)
- c. 행동 하나 하나가 국가의 이미지와 연결된다.
(行動一つ一つが国家のイメージと連結される (=つながる)。)

(5) では、NP1 と NP2 に当る「우리들 (我々)」と「자신들의 그림자 (自身の影)」、「신앙 (信仰)」と「지식 (知識)」、「행동 하나 하나 (行動一つ一つ)」と「국가의 이미지 (国家のイメージ)」は論理・価値的側面において対称関係にあり、それぞれ「이」格 (主格) と「와」格 (共同格) を成して対称動詞の必須補語として機能している。(5a) のような修飾節は、(4) に示した類型 1-4 の平叙文構造から派生したとみなし、その構造に置き換えた「우리들이 자신들의 그림자와 싸운다 (我々は自分の影と戦う)」の構造に基づいて格の関係を把握することにする。

類型 1 に分類される対称動詞の目録は (6) のとおりである。括弧中の数字は頻度を示したものである。最も高い頻度を見せるのは「관련되다 (関連する)」で、54 の用例が見られた。「관련되다」の例で特徴的なことは、他の動詞に比べ活用形が制約的であるという点である。「관련되다」の活用形は「관련된 (42)」「관련되는 (3)」「관련될 (1)」「관련되어 있다 (6)/관련돼 있다 (1)」「관련되지 않다 (1)」という分布を見せているが、「(NP1 이) NP2 와 관련된 ((NP1 が) NP2 と 관련된)」という型が主を成している。「만나다 (会う)」「싸우다 (戦う・喧嘩する)」「결혼하다 (結婚する)」など典型的な対称動詞として論議されてきたものも、高い頻度を見せている。

(6) 〈類型 1 の対称動詞〉

관련되다 (関連する) (54), 어울리다 (釣り合う) (44), 만나다 (会う) (35), 싸우다 (戦う・喧嘩する) (25), 결혼하다 (結婚する) (24), 동떨어지다 (かけ離れる) (20), 일치하다 (一致する)⁸, 구별되다 (区別される) (18), 떨어지다 (離れる) (17), 헤어지다 (別れる), 연결되다 (連結される) (15), 직결되다 (直結する), 결부되다 (結び付けられる) (12), 관계되다 (関係する) (9), 닮다 (似る), 연관되다 (関連する) (8), 접촉하다 (接触する), 경쟁하다 (競争する) (7), 달라지다 (変わる), 마주치다 (合わせる), 맞서다 (対立する), 함께하다 (ともにする), 맞물리다 (噛みあう) (6), 분리되다 (分離される), 사귀다 (つき

あう), 어긋나다 (くいちがう), 타협하다 (妥協する), 통하다 (通じる), 겨루다 (競う)(5),
 결합되다 (結合される), 관계하다 (関係する), 맞닿다 (触れあう), 부합되다 (ぴったり合
 合う), 상충되다 (相容れない), 자다 (寝る), 가까워지다 (近づく)(4), 결탁하다 (結託す
 する), 결합하다 (結合する), 겹치다 (重なる), 공존하다 (共存する), 다투다 (争う), 대
 조되다 (対照される), 마주서다 (向かい合って立つ), 마주앉다 (向かい合って座る), 말
 하다 (話す), 맞먹다 (匹敵する), 밀착되다 (密着する), 병행하다 (並行する), 부딪치
 다 (ぶつかる), 살다 (暮らす), 섞이다 (まざる), 이야기하다 (話をする), 접하다 (接
 する), 조화되다 (調和する), 격리되다 (隔離される)(3), 교섭하다 (交渉する), 구분되
 다 (区分される), 대결하다 (対決する), 대응하다 (対応する), 대화하다 (対話する),
 동행하다 (同行する), 맞닥뜨리다 (かちあう), 맺어지다 (結ばれる), 모순되다 (矛盾
 する), 비교되다 (比較される), 손잡다 (手をつなぐ), 연합하다 (連合する), 일치되다
 (一致する), 작반하다 (道連れになる), 통화하다 (通話する), 협력하다 (協力する), 계
 약하다 (契約する)(2), 괴리되다 (乖離する), 넘나들다 (出入りする), 단절되다 (断絶
 する), 대립하다 (対立する), 맞다 (合う), 맞붙다 (くっつきあう), 밀착하다 (密着す
 する), 붙다 (付く), 비례하다 (比例する), 상응하다 (相応する), 상의하다 (相談する),
 상치되다 (かちあう), 상통하다 (相通じる), 소통하다 (疎通する), 알다 (知る), 얘기
 하다 (話をする), 어우러지다 (一団となる), 엮히다 (もつれる), 연계되다 (つながる),
 연대하다 (連帯する), 유착하다 (癒着する), 인접하다 (隣接する), 제휴하다 (提携する),
 지내다 (過ごす), 친해지다 (親しくなる), 통합하다 (統合する), 포옹하다 (抱擁する),
 하다 (성관계/키스)(する: 性関係/キス), 합의하다 (合意する), 협상하다 (協商する),
 협의하다 (協議する), 화해하다 (和解する), 회담하다 (会談する), 간음하다 (姦淫する)(1),
 갈라지다 (分かれる), 같아지다 (同じになる), 거래하다 (取引する), 교류하다 (交遊す
 する), 교체되다 (交代になる), 내기하다 (賭けをする), 내통하다 (内通する), 담쌓다
 (縁を切る), 대결되다 (対決する), 대립되다 (対立する), 대면하다 (対面する), 대별
 되다 (大別される), 대비되다 (対比される), 대체되다 (替えられる), 대치하다 (対峙
 する), 대항하다 (對抗する), 동감하다 (同感する), 동거하다 (同居する), 동일시되다
 (同一視される), 동접하다 (同接する), 동침하다 (枕をとともにする), 동화하다 (同化す
 する), 둘러앉다 (輪になって座る), 뒤섞이다 (混ざる), 들어맞다 (ぴったり合う), 맞부
 딪치다 (ぶつかりあう), 맞부딪히다 (ぶつかりあう), 맞아떨어지다 (ぴったり合う), 멀
 어지다 (遠ざかる), 면대하다 (対面する), 밀약하다 (密約する), 발맞추다 (歩調をあわ
 세る), 배치되다 (配置される), 병렬되다 (並列になる), 병립하다 (並立する), 병존하
 다 (並存する), 부대끼다 (苛まれる), 부딪히다 (ぶつかる), 부합하다 (符合する), 비
 견되다 (比肩される), 비교당하다 (比較される), 비기다 (引き分ける), 사별하다 (死別
 する), 사통하다 (密通する), 상대하다 (相手をする), 상반되다 (相反する), 상봉하다
 (めぐり合う), 생이별하다 (生き別れになる), 생활하다 (生活する), 습합하다 (習合す
 する), 씨름하다 (相撲をとる), 악수하다 (握手する), 안다 (抱く), 양립하다 (両立する),
 어우르다 (一つにする), 엉기다 (固まる), 연관하다 (関連する), 연루되다 (巻き添えに
 なる), 연애하다 (恋愛する), 왕래하다 (往来する), 융합하다 (融合する), 이별하다
 (離別する), 이어지다 (つながる), 이웃하다 (隣接する), 일맥상통하다 (一脈相通ずる),
 작별하다 (惜別する), 작용하다 (作用する), 재담하다 (漫談をする), 재회하다 (再会す
 する), 접촉되다 (つなぎあわされる), 정반대되다 (正反対である), 조응하다 (調応する),

조화하다 (調和する), 중복되다 (重複する), 직결하다 (直結する), 짜다 (組む), 차별되다 (差別される), 충돌하다 (衝突する), 친숙해지다 (親しくなる), 투쟁하다 (鬭争する), 평행하다 (平行する), 하나되다 (一つになる), 합병되다 (合併される), 합작하다 (合作する), 합쳐지다 (合わされる), 합치다 (合わせる), 합치하다 (合致する), 항쟁하다 (抗争する), 협조하다 (協調する), 혼인하다 (婚姻する), 화합하다 (和合する), 환담하다 (歓談する), 회견하다 (會見する)

2. 1. 2. 類型 2 - NP1 이 NP2 를 NP3 과 V (NP1 が NP2 を NP3 と V)

類型 2 に属する用例は (7) のとおりである。この構造では、文の述語の統語意味構造を完成させるために「NP1 이 (NP1 が)」「NP2 를 (NP2 を)」「NP3 과 (NP3 と)」の三つの項を必須とする。また、(7)a-(7)c において「NP2」と「NP3」に該当する「스스로 (自ら)」と「타자 (他者)」、「깊이 있는 교육이론 (深みのある教育理論)」と「현장연구 (現場の研究)」、「값 비싼 부츠 (高価なブーツ)」と「축구용 운동화 (サッカー用運動靴)」はそれぞれ意味的等価性をもち、対称関係を成している。

- (7) a. 그것이 곧 민주주의가 스스로를 타자와 구별하는 본질이라 할 수 있다.
(それがすなわち民主主義が自らを他者と区別する本質であると言える。)
- b. 첫째, 깊이 있는 교육이론을 현장연구와 결부시켜 학급현장에서 …
(第一に、深みのある教育理論を現場の研究と結び付けて学級の現場で…)
- c. 언젠가는 … 값 비싼 부츠를 축구용 운동화와 바꿔 신었다가 …
(いつか…高価なブーツをサッカー用の運動靴と履き替えたところ…)

次の (8) の例では、「소의 덕성 (牛の徳性)」と「다른 동물들 (他の動物たち)」とは意味的等価性 (対称性) をもたないように見えるが、これは「이 작품은 소의 덕성을 다른 동물들 (의 덕성) 과 비교하여 … (この作品は牛の徳性を他の動物たち (の徳性) と比較し…)」とすれば、論理・価値的側面における等価性が維持されると言える。

- (8) 이 작품은 소의 덕성 (徳性) 을 다른 동물들과 비교하여 설명해 놓은 글이다.
(この作品は牛の徳性を他の動物たちと比較し説明した文章である。)

類型 2 に該当する動詞の目録は、次のとおりである。「비교하다 (比較する)」「구별하다 (区別する)」のような「比較」の意味をもつ対称動詞が高い頻度を見せている。

(9) 〈類型 2 の対称動詞〉

비교하다 (比較する)(45), 구별하다 (区別する)(11), 바꾸다 (替える)(10), 관련짓다 (関連付ける)(6), 견주다 (比べる)(5), 곁들이다 (添える), 동일시하다 (同一視する)(4), 결부시키다 (結び付ける)(3), 관련시키다 (関連させる), 맞추다 (合わせる), 대비하다 (備える)(2), 떼어놓다 (引き離す), 섞다 (混ぜる), 연결시키다 (連結する), 가늠하다 (見当をつける)(1), 결합시키다 (結合する), 교배시키다 (交配する), 구분하다 (区分する), 대조하다 (対照する), 대체시키다 (取り替える), 맞바꾸다 (交換しあう), 병행하다 (並行する), 분리하다 (分離する), 연결하다 (連結する), 연계시키다 (たがいにつな

げる), 일치시키다 (一致させる), 접목시키다 (つなぎ合わせる), 접촉시키다 (接触させる), 차별화시키다 (差別化する), 차별화하다 (差別化する), 혼동하다 (混同する)

また、(10)a のように類型 3 の「NP3」に該当する内容項を類型 2 が再びとる構造も見られた。

- (10)a. 이 새로운 코페르니쿠스의 우주구조는 … 지구와 달을 태양과 그 위치를 바꾸어서 태양이 우주의 중심에 오게 … (この新たなコペルニクスの宇宙構造は…地球と月を太陽とその位置を替えて太陽が宇宙の中心に来るように…)
- b. 철수는 쌀을 돈과 바꾸었다. (チョルスは米を金と替えた。) – 類型 2
철수는 영희와 자리를 바꾸었다. (チョルスはヨンヒと席を替えた (=席を替わった。)) – 類型 3

すなわち、(10)a は「NP1 이 (코페르니쿠스의 우주구조는) NP2 를 (지구와 달을) NP3 과 (태양과) NP4 를 (그 위치를) V(바꾸다): NP1 が (코페르니쿠스의 우주구조는) NP2 を (地球と月を) NP3 と (太陽と) NP4 を (その位置を) V(替える)」という構造に解釈できる。このような類型が現れるのは、(10)b でわかるように「바꾸다 (替える)」という動詞が類型 2 の文構造と類型 3 の文構造のいずれをもとりえるためであると考えられる。

2.1. . . . 類型 – NP1 이 NP2 와 NP3 을 V(NP1 が NP2 と NP3 を V)

類型 3 に該当する用例は、次の (11) のとおりである。

- (11)a. 이씨가 이곳을 택한 것 또한 역사적 사건과 맥락을 같이한다.
(李氏がここを選んだのもまた歴史的な事件と脈絡をとにする (=同一線上にある。))
- b. 문학 연구는 문학의 … 체험적 요소와는 관계를 맺지 않아야 한다는 것이었다.
(文学の研究は文学の…体験的要素とは関係を結んではならないということだった。)
- c. 세호는 밤새도록 아버지와 이야기를 나누고 싶었습니다.
(セホは夜明けまで父親と話しを分かち合いたかったのです (=話し合いたかったのです。))
- d. 어린이와 얼굴을 마주 대하고는, 우리는 찡그리는 얼굴, 성낸 얼굴, 슬픈 얼굴을 못 짓게 된다.
(子どもと顔を突き合わせると、我々はしかめ面、怒った顔、悲しい顔をすることができなくなる。)

類型 3 は、対称関係を成す「NP1」と「NP2」が「何か」を共同で行うという意味構造をもち、この「何か」に当たる内容項「NP3」は (11)a-(11)d に見られるように「맥락 (脈絡)」「관계 (関係)」「이야기 (話)」など、抽象的な内容である場合が大部分である。(d) の「얼굴 (顔)」のように具体物の場合もあるが、これも物理的な作用を意味するのではなく、「互に見つめる」という抽象的な意味と解釈される。

- (12)a. 막돌이가 곶감을 내어 무돌이와 나눠 먹습니다.
(マクトリが干し柿を取り出してムドリと分けて食べます。)

- b. 동네 사람들과 공동구매한 물품을 나누었다.
(町内の人たちと共同購買した物品を分けた。)
- c. 오늘 나하고 술 한잔 나누면서 얘길 해 보자.
(今日僕と酒を一杯飲みながら話をしてみよう。)
동료들과 차 한잔 나눌 여유도 없다.⁹
(同僚たちとお茶1杯を分かち合う余裕もない。)

(12)a는 「막들이가 꺾감을 내어 (막들이가 그 꺾감을) 무돌이와 나눠 먹다 : 마クト리가干し柿を取り出して (マクトリがその干し柿を) ムドリと分けて食べる」という意味だが、「와」補語をとる述語が「나누다 (分ける)」なのか「나눠 먹다 (分けて食べる)」という動詞句全体なのかは判断が難しい。(12)aを「막들이와 무돌이가 꺾감을 몇 개씩 나누어서 (분배하여서) 각자의 몫을 먹는 : 마クト리와ムドリ가干し柿をいくつかずつ分けて (分配して) 各自の分を食べる」という場面を描写したものと見るならば、「무돌이와 (ムドリと)」は「나누다 (分ける)」の補語になるであろうし、「분배하지 않고 다만 함께 먹는 : 分配せずにただいっしょに食べる」場面であれば、「나눠 먹다 (分けて食べる)」の補語になるであろう。

参考に(標準国語大辞典)と(延世韓国語辞典)の語釈を見ると、「나누다 (分ける)」が「몫을 분배하다 (分け前を分配する)」の意味であったり((12)b)、「음식을 함께 먹거나 갈라 먹다 (食べものをいっしょに食べたり分けて食べる)」の意味である場合には((12)c) 具体名詞が内容項の位置にくるといふ。しかし、(12)bは計量的に物を分けるという意味であるのに対し、(12)cはそれぞれ「술자리를 하다 (酒の席をとともにする)」「다과를 하다 (茶をとともに飲む)」という意味になり、同じ具体名詞「술 (酒)」や「차 (お茶)」がきていても「이야기를 나누다 (話を分かち=話し合う)」と同様に抽象的な意味に解釈できる。さらに、(12)aのように「술 (酒)」や「차 (お茶)」以外の具体的な飲食物が対象になる場合には、場面によって二つの解釈が可能である。単に「함께 먹다 (いっしょに食べる)」の意味である場合には「나눠 먹다 (分けて食べる)」全体が「와 (と)」補語を要求する構造になっていると解釈するのが自然である。

類型3に属する動詞の目録は(13)のとおりである。「맺다 (結ぶ)」と「나누다 (分ける)」が他の用言に比べ高い頻度を見せている。

(13) (類型3の対称動詞)

맺다 (結ぶ)(42), 나누다 (分ける・交わす)(34), 같이하다 (とにする)(10), 체결하다 (締結する)(9), 함께하다 (とにする), 맞추다 (合わせる)(5), 의논하다 (話し合う), 주고받다 (やりとりする), 달리하다 (異にする)(4), 건네다 (渡す・話しかける)(2), 맞대다 (突き合わせる), 상의하다 (相談する), 약속하다 (約束する), 합의하다 (合意する), 협의하다 (協議する), 갈아입다 (着替える)(1), 공식하다 (一緒に食べる), 교환하다 (交換する), 대하다 (対する), 마주하다 (向き合う), 바꾸다 (替える), 엮다 (編む), 왕래하다 (往来する), 지껄이다 (이야기하다)(しゃべりまくる), 합치다 (合わせる)

「NP1이 NP2를 NP3과 V(NP1がNP2をNP3とV)」において、次のように「NP2」と「NP3」が互いに位置を替えて現れる例も見られた。

- (14)a. 필리핀 공산 반군은 … 협정을 북한과 체결했다고 필리핀 군 당국이 24일 밝혔다.

(フィリピンの共産反乱軍は…協定を北朝鮮と締結したとフィリピン軍当局が 24 日明らかにした。)

- b. 위인이 … 제반 문권을 그와 상의하는 것이었다.
(偉人が…諸般文書を彼と相談するのだった。)

(14)a は「필리핀 공산 반군이 북한과 협정을 체결하다 (フィリピンの共産反乱軍が北朝鮮と協定を締結する)」という構造と、「필리핀 공산 반군이 협정을 북한과 체결하다 (フィリピンの共産反乱軍が協定を北朝鮮と締結する)」という構造のいずれをもとることができ、これは (b) においても同様である。このように、類型 3 においては「NP2」と「NP3」の位置交代が可能である。

類型 3 の内容項「NP3」はある程度の類型化が可能で、本研究で見られた内容項の分布は (15) のとおりである (括弧内の数字は頻度)。

(15) (類型 3 における内容項「NP3」の分布)

같이하다 (ともにする) - 궤 (軌)(1)/ 때 (時)(3)/ 맥 (脈)(1)/ 맥락 (脈絡)(2)/ 뿌리 (根)(1)/ 호흡 (呼吸)(1)...

건네다 (話しかける) - 농담 (冗談)(1)/ 잡담 (雑談)(1)

교환하다 (交換する) - 눈길 (まなざし)(1)

나누다 (分ける・交わす) -

고민 (苦惱)(1)/ 대화 (対話)(5)/ 악수 (握手)(3)/ 얘기 (話)(1)/ 의견 (意見)(1)/ 이야기 (話)(9)/ 인사 (挨拶)(4)/ 정 (情)(1)/ 짐 (荷物)(1)/ 포옹 (抱擁)(1)...

달리하다 (別にする) - 구조 (構造)(1)/ 맥 (脈)(1)/ 소견 (所見)(1)...

대하다 (対する) - 얼굴 (顔)(1)

마주하다 (向き合う) - 얼굴 (顔)(1)

맞대다 (突きあわせる) - 얼굴 (顔)(1)/ 이마 (額)(1)

맞추다 (合わせる) - 눈 (目)(1)/ 눈길 (まなざし)(1)/ 눈웃음 (目の微笑)(1)/ 짝 (組)(1)

맺다 (結ぶ) - 결연 (縁)(2)/ 계약 (契約)(5)/ 관계 (関係)(10)/ 관련 (関連)(2)/ 교분 (よしみ)(1)/ 동맹 (同盟)(5)/ 연관 (関連)(2)/ 인연 (因縁)(5)/ 제휴 (提携)(2)/ 친교 (親交)(1)...

체결하다 (締結する) - 계약 (契約)(4)/ 약정 (約定)(2)/ 협정 (協定)(3)

함께하다 (ともにする) - 고락 (苦樂)(1)

「나누다 (分ける・交わす)」は内容項として「이야기 (話)」「대화 (対話)」「인사 (挨拶)」「악수 (握手)」「고민 (悩)」「정 (情)」「포옹 (抱擁)」などをとるのに対し、「맺다 (結ぶ)」の場合は「관계 (関係)」「계약 (契約)」「동맹 (同盟)」「인연 (因縁)」などが内容項である「NP3」の位置にくることが多い。このうち、「이야기 (話)」「대화 (対話)」「인사 (挨拶)」「악수 (握手)」「관계 (関係)」「계약 (契約)」「동맹 (同盟)」「인연 (因縁)」は対称名詞であり、「고민 (悩み)」「정 (情)」などは対称名詞ではない。

金亨貞 (2006) では、「이야기를 하다 (話をする)」「관계를 가지다/ 끊다 (関係を持つ/絶つ)」などについて、動詞句全体が「와 (と)」項を必須補語として要求する統語構造をもつと説明した。そうであれば、こうした形態と本稿で類型 3 として示した「NP1 이 NP2 와 이야기를 나누다 (NP1 が NP2 と話を交わす)」「NP1 이 NP2 와 관계를 맺다 (NP1 が NP2 と関係を持つ)」など

とがどのように異なっているのかという疑問が生じる。

「NP1 이 NP2 와 이야기를 나누다 (NP1 が NP2 と話を交わす)」「NP1 이 NP2 와 관계를 맺다 (NP1 が NP2 と関係を持つ)」では、「나누다 (交わす)」と「맺다 (結ぶ)」という動詞自体が対称動詞であり、交わしたり結んだりという行為をともにする対称関係の動作主「NP1 이」と「NP2 와」、そして交わしたり結んだりする対象となる内容項「NP3 을」を要求することとなる。すなわち、これは三つの補語をとる三価述語と考えられる。(15) で示したように、この内容項「NP3」は対称名詞である場合もあり、そうでない場合もある。したがって、「이야기를 나누다 (話を交わす)」「관계를 맺다 (関係を持つ)」において、内容項「NP3」が対称名詞であることは類型3になるための必要十分条件ではない。

この類型3は、「NP1 이 NP2 와 {대칭명사 / 비대칭명사} 을 + 대칭동사 (NP1 が NP2 と {対称名詞 / 非対称名詞} を + 対称動詞)」の構造をもっている。「対称名詞 + 対称動詞」の構造としては、「{대화 / 약속 / 애기 / 인사...} 을 나누다 ({対話 / 握手 / 話 / 挨拶...} を交わす)」「{결연 / 계약 / 관계 / 관련 / 교분 / 동맹 / 연관 / 인연...} 을 맺다 ({縁 / 契約 / 関係 / 関連 / 交分 / 同盟 / 連関 / 因縁...} を結ぶ)」「{계약 / 약정 / 협정...} 을 체결하다 ({契約 / 約定 / 協定...} を締結する)」がある。「非対称名詞 + 対称動詞」の形には「{고민 / 의견 / 정 / 짐} 을 나누다 ({悩み / 意見 / 情 / 荷物} を分け合う・交わす)」「눈길을 교환하다 (視線を交わす)」「얼굴을 마주하다 (顔を向け合う)」「때를 같이하다 (時をともにする)」などがある。「맺다 (結ぶ)」と「체결하다 (締結する)」は、本稿で利用したコーパスの用例に限ってみるならば全てが対称名詞と結合して現れる。

しかし、動詞句全体が「와 (と)」格の補語を要求する類型である「이야기를 하다 (話をする)」や「관계를 가지다 / 끊다 (関係を持つ / 絶つ)」は、「対称名詞 + 非対称用言」の形を示す。ここで意味構造に対称性を作り出す重要な役割を果たしているのは、用言の形態ではなく、前にきている体言の形態である。つまり、「이야기를 하다 (話をする)」や「관계를 가지다 / 끊다 (関係を持つ / 絶つ)」において、意味的に対称関係にある二つの項を要求するものは、動詞句の体言部である「이야기 (話)」や「관계 (関係)」である。この対称名詞が動詞「하다 (する)」「가지다 (持つ)」「끊다 (絶つ)」と結合して一つの動詞句を成した後、これらが統語構造において一つの対称用言のように機能し、「와」格の補語をとることとなる。

金亨貞 (2006 : 121-122) では、「와」格の項を必須補語として要求する動詞句の類型の中で、最も高い比率を占めているのはまさにこの「대칭명사 + 비대칭용언 (있다 / 없다 / 하다 / 되다...)」(対称名詞 + 非対称用言 (ある / ない / する / なる...)) の構造であり、動詞句内部の用言の頻度は「있다 (ある 60)」「없다 (ない 45)」「하다 (する 42)」「되다 (なる 29)」「벌이다 (展開する 22)」「가지다 (持つ 14)」「이루다 (成す 11)」「거치다 (経る 6)」「갖다 (持つ 5)」「나다 (出る 5)」「두다 (置く 4)」「일으키다 (起こす 4)」「끊다 (絶つ 3)」「마치다 (終える 3)」... の順だと述べた。¹⁰

本稿では、対称名詞と結合して現れる動詞句内部の構造をより詳しく分類する。動詞句内部の用言部を中心に対称名詞との結合様相をまとめると以下の(16)のとおりである。この目録も本研究で利用した 90 万文節のコーパス分析の結果に基づいたものである。

(16) <「対称名詞 + 非対称用言」構造の動詞句 ? 「用言部」を中心に >

NP 를 가지다 (NP を持つ)

NP- { 관계 (関係), 관련 (関連) 면담 (面談) 상견례 (相見礼), 오찬 (午餐),

- 인터뷰 (インタビュー), 회견 (會見), 회담 (會談), 회의 (會議) など}
- NP 를 거치다 (NP を経る)
- NP-{ 거래 (取引), 논의 (論議), 합의 (合議), 협의 (協議)}
- NP 가 깊다 (NP が深い) NP-{ 관계 (關係), 관련 (関連)}
- NP 를 끝내다 (NP を終える) NP-{ 통화 (通話), 협의 (協議)}
- NP 가 되다 (NP になる)
- NP-{ 결부 (結付), 관련 (関連), 구별 (區別), 모순 (矛盾), 부합 (符合), 비교 (比較), 상대 (相手), 상충 (相衝), 수교 (修交), 연합 (連合), 원수 (怨讐=敵), 의사소통 (意思相通), 충돌 (衝突), 통화 (通話), 하나 (ひとつ), 한덩어리 (ひとつとまり), 한통속 (相通じる仲間), 합병 (合併) など}
- NP 를 마치다 (NP を終える) NP-{ 교신 (交信), 상의 (相議=相談)}
- NP 를 벌이다 (NP を展開する、する)
- NP-{ 거래 (去来=取引), 경기 (競技=試合), 경쟁 (競争), 교섭 (交渉), 대결 (対決), 대치극 (対峙劇), 신경전 (神經戰), 실랑이 (よしあしを争うこと), 싸움 (喧嘩), 양파전 (二つの派による争い), 전쟁 (戦争), 토론 (討論), 패싸움 (集團けんか), 혈전 (血戰), 협상 (協商) など}
- NP 를 보이다 (NP を見せる) NP-{ 대조 (対照), 차이 (差異)}
- NP 가 붙다 (NP が始まる) NP-{ 시비 (是非を争うこと、口論), 싸움 (喧嘩)}
- NP 가 없다 (NP がない)
- NP-{ 관계 (關係), 이해 (利害), 관련 (関連), 교류 (交流), 단락 (段落), 단절 (斷絶), 상관 (相関), 인연 (因縁、縁), 접촉 (接触), 차이 (差異、違い), 친분 (親しい付き合い) など}
- NP 를 이루다 (NP を成す) NP-{ 관계 (關係), 대조 (対照), 조화 (調和)}
- NP 를 일으키다 (NP を起こす) NP-{ 갈등 (葛藤), 마찰 (摩擦), 반응 (反応), 혼동 (混同)}
- NP 가 있다 (NP がある)
- NP-{ 관계 (關係), 상관관계 (相関關係), 관련 (関連), 약속 (約束), 연관 (連関、関連), 인연 (因縁、縁), 차이 (差異、違い), 적분 (戚分、親戚の關係), 친교 (親交), 친분 (親しい付き合い), 합의 (合意) など}
- NP 에 있다 (NP にある) NP-{ 경쟁 관계 (競争關係), 불가분의 관계 (不可分の關係), 피와 살의 관계 (血と肉の關係、血肉の關係)}
- NP 를 치르다 (NP を行う) NP-{ 경기 (競技、試合), 전쟁 (戦争)}
- NP 를 하다 (NP をする)
- NP-{ 결합 (結合), 결혼 (結婚), 관계 (關係), 계약 (契約), 대좌 (対座), 대담 (対談), 대화 (對話), 말다툼 (口喧嘩、口論), 무역 (貿易), 사랑 (愛), 상담 (相談), 상호 작용 (相互作用), 실랑이 (よしあしを争うこと), 싸움 (喧嘩), 악수 (握手), 얘기 (話), 이야기 (話), 인터뷰 (インタビュー), 전쟁 (戦争), 커뮤니케이션 (コミュニケーション), 통성명 (通姓名、互いに自己紹介をすること), 통화 (通話) など}
- その他 ? 인연을 끊다 (縁を断つ), 차이가 나다 (差が出る), 친분이 두둑다 (非常に親しい), 충돌이 많다 (衝突が多い), 협상을 모색하다 (協商を模索する), 합의를

보다 (合意を見る、合意する), 마찰을 빚다 (摩擦を起こす), 한방을 쓰다 (同じ部屋で暮らす), 접촉에 응하다 (接触に応じる), 왕래가 잦다 (往來が頻繁である), 차이가 존재하다 (差異が存在する), 밀회를 즐기다 (密會を楽しむ), 상담을 진행하다 (相談を進める), 대화를 추진하다 (對話を推進する), 교분을 트다 (交分をはじめ、知り合いになる), 대결을 펼치다 (対決を繰り広げる), 접촉을 피하다 (接觸を避ける) など

2. 1. 4. 類型 4 – NP1 이 NP2 와 NP3 이 V (NP1 が NP2 と NP3 が V)

類型 4 に属する用例は (17) のとおりである。類型 4 も類型 3 と同じく「NP1」と「NP2」とが対称関係を成すが、(17)a-(17)c の「눈이 (目が)」「궁합이 (相性が)」「이야기가 (話が)」のように、内容項である「NP3」を「을 (を)」格ではなく「이 (が)」格でとっている。

- (17)a. 나는 상대와 눈이 마주치면 말문이 막히고 긴장된다.
(私は相手と目が合うと言葉が出なくなり緊張する。)
- b. 과수 (果樹) 도 인근에 있는 나무와 궁합이 맞고 맞지 않고에 따라 …
(果樹も近くにある木と相性が合う合わないにより…)
- c. …앞서가는 패션 감각을 보여주는 아빠와는 그래서 이야기가 참 잘 통한다.
(先進的なファッション感覚を見せてくれるパパとはだから話が本当によく通じる。)

類型 4 に属する動詞目録とその分布は (18)a のとおりで、内容項として現れる「NP3」は (18)b のように現れる。類型 4 に属する用例は 10 に過ぎないので、内容項を類型化するのには困難である。

(18) 〈類型 4 の対称動詞〉

- a. 마주치다 (合わせる)(4), 맞다 (合う)(2), 엮히다 (もつれる)(1), 토의되다 (討議される), 통하다 (通じる)
- b. 마주치다 (合わせる) – 눈 (目) / 눈길 (まなざし) / 시선 (視線)
맞다 (合う) – 궁합 (相性)
엮히다 (もつれる) – (이해) 관계 ((利害) 関係)
통하다 (通じる) – 피 (血) / 이야기 (話)

2. 1. 5. その他の類型

上の四つの類型以外に、活用形が極めて制約的な「더블다 (ともにする)」「아우르다 (合わせる)」「관련하다 (関連する)」の類型が存在する。このうち「더블다」は対称動詞の中で最も高い頻度を見せている。「NP 와 (NP と)」を補語とするこれらの動詞は、常に「NP 와 {더블어 / 더블어서}」「NP 와 {아울러 / 아울러서}」¹¹「NP 와 {관련해 / 관련하여 / 관련해서 / 관련된}」の構造で実現する。これらの用例は (19) のとおりである。

- (19)a. 설은 추석과 더불어 전통적인 양대 명절이지만 …
(正月は中秋節とともに伝統的な節句だが…)
- b. 우리는 법의 유용성과 아울러 그 한계를 분명하게 알아야 한다.
(我々は法の有用性と合わせてその限界をはっきりと知らなければならない。)

- c. 총장 선출 방식과 관련해 대학 교육협의회는 … 다양한 모형을 제시한 바 있다.
(総長選出方法と関連して大学教育協議会は…多様なモデルを提示したことがある。)

「더블다」は「NP 와 더블다 (NP とともにする)」と「(NP1 이) NP2 를 더블다 ((NP1) が NP2 をとともにする)」の二つの格フレームをもつものと考えられる。本研究に用いた 90 万文節規模の研究コーパスにおいては「NP 와 더블어」の形が 93 例、「NP 와 더블어서」の形が 1 例見られた。また、〈21 世紀世宗計画現代韓国語コーパス〉のうち、書き言葉コーパス約 900 万文節全体を対象に「더블다」を検索した結果は次のとおりである。二つの格フレームのうち、前者の場合には活用形が「더블어」「더블어서」「더블은」の三つに制限され、後者は「더블고」の形のみ現れる。「- 와 더블어」の用例が 918 例、「- 와 더블어서」が 13 例、「- 와 더블은」が 5 例見られ、「- 를 더블고」の用例は 1 つであった。

活用形が大部分「더블어」であるので、これを副詞とする見解もありうる。しかし、こうした場合「더블어서」「더블은」のような他の形態との関連の説明に一貫性をもたせにくい。同一構造と解釈されるにも関わらず、「더블어」は副詞、「더블어서」や「더블은」は動詞の活用形として処理するのは、個別の用例に基づくその場しのぎ的なやり方である。したがって、本稿では「더블어」を活用形が制限された不完全動詞とみなすことにする。「더블어 사는 삶에 관심을 가지게 되었습니다. (ともに暮らす人生に関心をもつようになりました)」のように「더블어」がその前に何の項もとらず単独で現れる用例が 160 あったが、このような用法を一つの副詞と見るか、「와 (と)」項が省略された構造と見るかは、文脈により、または立場により異なる。本稿では実現していない項は研究対象としていないため、この問題に関してはこれ以上論議しないものとする。¹²

「아우르다 (合わせる)」もまた「NP 와 아우르다 (NP と合わせる)」と「(NP1 이) {NP2 를 /NP2 와 NP3 을} 아우르다 ((NP1) が) {NP2 を /NP2 と NP3 を}合わせる)」の二つの格フレームをもち、前者の場合のみ活用形が制約され、後者の場合には活用形の制約はない。本研究で用いた研究コーパスでは「NP 와 아울러」の形のみ 16 例見られた。「관련하다 (関連する)」は頻度数が 44 で、活用形は「관련한 (19)」「관련하여 (11) / 관련해 (9)」「관련해서 (3)」という分布を見せている。

また、次の (20) のように、内用項として「NP 이 (NP が)」と「NP 를 (NP を)」以外の形の第 3 の項をとる例も見られる。

- (20)a. 김재일 회장은 … 난민돕기운동의 필요성에 대해 공장관과 환담했다.
(キムチェイル会長は…難民救援運動の必要性についてコン長官と歓談した。)
- b. 당나라와는 육지의 길과 바다의 길로 통하였다.
(唐の国とは陸地の道と海の道で通じていた。)
- c. 미우라의 에이전트는 미국 새너제이팀과 이적에 관해 … 합의한 상태다.
(三浦のエージェントはアメリカのセノジェイチームと移籍に関して…合意した状態だ。)

(20)a では、「NP 에 대해 (NP について)」、(20)b では「NP 로 (NP で)」、(20)c では「NP 에 관해 (NP に関し)」の形がそれぞれ対称用言「환담하다 (歓談する)」「통하다 (通じる)」「합의하다 (合意する)」の内用項として用いられている。

- (21)a. … 선량한 이웃들과 엮어내는 아기자기한 일상사에도 있지만 …
 (善良な隣人たちと編み出す心温まる日常の出来事にもあるだろうが…)
 → ?? (NP1 이) 선량한 이웃들과 일상사를 엮어 내다.
 ((NP1 가) 善良な隣人たちと日常の出来事を編み出す。)
- b. 생활과 함께하는 새 사업 (生活とともにする (=生活に密着した) 新事業)
 → ?? 새사업이 생활과 함께하다. (新事業が生活とともにする。)

(21)に見られるように、修飾節構造を成す一部の用例は、平叙文構造に置き換えるのに制約を受ける。

また、本稿の分析対象からは除外されたが、(22)のような「NP1 과 NP2 와 V (NP1 と NP2 と V)」という構造で現れる例も一部見られた。

- (22)a. 진화의 사실과 진화학설과 구별하여야 한다.
 (進化の事実と進化説と区別せねばならない。)
- b. …평균적인 젊은이와 평균적인 나이보다 더 젊게 사는 젊은이와 비교해볼 때 …
 (平均的な若者と平均的な歳よりもっと若く暮らす若者と比較してみるととき…)

この構造を「NP1 과 NP2 와를 V (NP1 と NP2 とを V)」において「를 (を)」が省略されたものと見るのであれば、「와 (と)」は接続助詞と考えられる。このような形態は中期朝鮮語に見られるもので、安秉熙・李珖鎬 (1993:185-186)によると、中期朝鮮語においては句接続により形成された名詞句が主格であれば「왜 / 왜」、対格であれば「와를 / 과를」、処格であれば「와에 / 과에」、属格であれば「와 / 과」の形で現れるという。

2.2. 対称形容詞の文構造

対称形容詞の文構造において特徴的なことは、対称形容詞を含む節が文中で修飾節に属する場合が多いということである。

特に、形容詞「같다 (同じだ)」は全用例 128 のうち 101 が「…같은 NP (～のような NP)」という修飾節構造で現れている。したがって、このような構造を類型 1 と類型 4 のうちいずれの文構造をもつものと分析するかについて論議が必要となる。ここでは、代表的な類型をいくつか簡略に提示するにとどめる。

まず、類型 1 である「NP1 이 NP2 와 ~ 같다 (NP1 が NP2 と～同じだ)」の構造から派生したものと解釈できる例は、次の (23) のとおりである。

- (23)a. 뚜렷한 확신도 없고 하얀 종이와도 같은 우리들에게 당연히 혼란이 왔다.
 (はっきりした確信もなく白い紙と同じような我々に当然混乱がきた。)
 → 우리들이 하얀 종이와도 같다. (我々が白い紙と同じだ。)
- b. 소속 방송국을 잃은 설움은 앵커맨에게 있어서 마치 나라를 잃은 서러움과 같은 것이었다.
 (所属の放送局を失う悲しみは、アンカーマンにとってあたかも国を失う悲しみと同じものであった。)
- c. 천사와 같은 면도 있고, 악마와 같은 면도 있다.

(天使と同じ面もあり、悪魔と同じ面もある (=天使 / 悪魔のような～。))

→* 면이 천사와 같다. (面が天使と同じだ。)

* 면이 악마와 같다. (面が悪魔と同じだ。)

(그) 면이 천사와 같다. ((その) 面が天使と同じだ。)

(그) 면이 악마와 같다. ((その面)が悪魔と同じだ。)

(23)a は、類型 1 (NP1 이 NP2 와 V (NP1 が NP2 と V)) である「우리들이 하얀 종이와도 같다 (我々が白い紙と同じだ)」の構造から「NP1」にあたる「우리들 (我々が)」が修飾節の主要部となったものである。(23)b は「소속 … 같은」が同格修飾節に抱き込まれているもので、この節によって修飾される名詞は「소속 … 같은」節内の文成分にはならない。すなわち、(23)b における依存名詞「것 (もの)」は「소속 방송국을 잃은 설움은 앵커맨에게 있어서 마치 나라를 잃은 서러움과 같다 (所属の放送局を失う悲しみは、アンカーマンにとってあたかも国を失う悲しみと同じだ)」の中のどの成分とも一致しない。このような類型においては、主に「것」「바」「줄」「말」などが主要部となっている。(23)c も修飾される名詞がこれを修飾する「… 같은」節の成分にならないように見える。(23)c に見られるように、「천사와 같은 (天使と同じ)」を「면이 천사와 같다 (面が天使と同じ)」に置き換えると非文法的な文となる。しかし、「(그) 면이 천사와 같다. ((その) 面が天使と同じだ)」のように連体詞「그 (その)」を「면 (面)」の前に挿入すると自然な文となる。したがって、ここではこのような構造もまた類型 1 に分類されることにする。本研究コーパスにおいてこの類型に分類される例は、いずれも「比喩」の意味を帯びている。すなわち、「천사 같은 (天使のような)」「악마 같은 (悪魔のような)」のように「NP 같다 (NP のような)」の構造に置き換えられるという特徴をもっている。

次に、類型 4 である「NP1 이 NP2 와 NP3 이 ~ 같다 (NP1 が NP2 と NP3 が ~ 同じだ)」の構造と考えられる「… 같은 NP (~同じ NP)」構造としては、次のようなものがある。

(24)a. 아이를 둘러싸고 있는 물은 늘 어머니의 체온과 같은 온도를 유지함으로써 …

(子どもを取り囲んでいる水は常に母の体温と同じ温度を保つことにより…)

b. … 거인에 입단한 미노와 같은 대우여서 일본 프로야구서도 최고 수준에 해당된다.

(…巨人に入団した箕輪と同じ待遇なので日本プロ野球でも最高水準に当たる。)

c. 지금도 전라도 지방에서는 세습적인 무당을 ‘당골’ 이라 부르고 있는데, 그것은 ‘단군’ 과 같은 어원을 가진 호칭이다.

(今も全羅道地方では世襲的な巫女を「タンゴル」と呼んでいるが、これは「檀君」と同じ語源をもつ呼称だ。)

d. 우리가 만날 수 있었던 사람들 가운데 … 우리와 같은 생김새를 하거나 우리와 같은 말을 쓰고, 우리와 같은 고향을 기억하는 같은 핏줄의 동포였다.

(我々が会うことのできた人たちの中で…我々と同じ格好をしていたり、我々と同じ言葉を使い、我々と同じ故郷を記憶している同じ血筋の同胞だった。)

(24)a は、「아이를 둘러싸고 있는 물은 (NP1 이) 어머니의 체온과 (NP2 와) 온도가 (NP3 이) 같다 (子どもを取り囲んでいる水は (NP1 が) 母の体温と (NP1 と) 温度が (NP3 が) 同じだ)」という文で、「온도 (温度)」が主要部になって修飾節を成しているものである。これは (24) b- (24) d も同様である。すなわち、ここでの「… 같은」はいずれも関係修飾節であり、類型 4 (「NP1 이

NP2 와 NP3 이 ~ 같다 (NP1 が NP2 と NP3 が ~ 同じだ)) で内容項である「NP3」が主要部となり修飾節となったものである。比較の内容項である「NP3」としては(24)aと(24)bのように「수(数)」「양(量)」「개수(個数)」「온도(温度)」「대우(待遇)」など数量化が可能な具体的な内容もある一方で、(24)cと(24)dのような「속성(属性)」「생김새(格好)」「시각(時刻)」「심정(心情)」「발상(発想)」などの抽象的な内容もある。¹³

2. 2. 1. 類型 1 – NP1 이 NP2 와 V (NP1 が NP2 と V)

類型 1 に属する用例は、次のとおりである。

- (25)a. 이 대합실은 일반 대합실과는 다릅니다. (この待合室は一般の待合室とは異なります。)
 b. 대상이 없다는 말은 그 어떤 것도 대상이 될 수 있다는 말과 같습니다.
 (対象がないという言葉は、いかなるものでも対象になりうるという言葉と同じです。)
 c. 여성은 남성과 동등하다. (女性は男性と同等だ。)

(25)aの「이 대합실(この待合室)」と「일반 대합실(一般の待合室)」、(25)bの「대상이 없다는 말(対象がないという言葉)」と「그 어떤 것도 대상이 될 수 있다는 말(いかなるものでも対象になりうるという言葉)」、(25)cの「여성(女性)」と「남성(男性)」は「NP1」と「NP2」にあてはまり、論理・価値的な側面から等価性を帯びる対称関係を成している。

類型 1 に属する形容詞の目録は、(26) のとおりである。

(26) 〈類型 1 の対称形容詞〉

다르다(異なる)(200), 같다(同じだ)(128), 비슷하다(似ている)(54), 무관하다(無関係だ)(39), 밀접하다(密接だ)(24), 관계없다(関係ない)(17), 유사하다(類似する)(15), 상관없다(関係ない)(12), 가깝다(近い)(10), 동일하다(同一だ), 똑같다(まったく同じだ), 흡사하다(酷似する)(9), 다름없다(他でもない)(8), 동등하다(同等だ)(4), 친하다(親しい), 또다르다(異なる・別である)(3), 판이하다(まったく異なる), 긴밀하다(緊密だ)(2), 꼭같다(まったく同じだ)(方言), 대등하다(対等だ), 상이하다(相違する), 진배없다(同等だ), 낮익다(なじみだ)(1), 다름아니다(他でもない), 멀다(遠い), 부합되다(符合する), 상관있다(関係ある), 색다르다(風変わりな), 아랑곳없다(意に介さない), 절친하다(きわめて親しい), 화해롭다(和やかだ)

二つの項を比較して類似点や差異点を述べる「다르다(異なる)」「같다(同じだ)」「비슷하다(似ている)」が高い頻度を見せている。対称形容詞の目録には、このように「比較」の意味をもつものが多数を占める。「관계없다(関係ない)」「무관하다(無関係だ)」「상관없다(関係ない)」なども「比較」と通じてそれらの関係を明らかにするわけであり、広義の「比較」範疇に含まれる。

形容詞のうち、「아랑곳없다(意に介さない)」「상관없다(関係ない)」「관계없다(関係ない)」では、活用形として「-없이(-なく)」の形が多く現れた。「상관없다(関係ない)」は12個の用例のうち8個が、「관계없다(関係ない)」では17個のうち11個が「상관없이(関係なく)」「관계없이(関係なく)」の形だった。

一方、二つの項を比較してその差を述べたり、無関係であることを述べる「다르다(異なる)」

「또 다르다 (異なる・別である)」「상관없다 (関係ない)」「무관하다 (無関係だ)」などの形容詞では、「와 (と)」補語に助詞「는 (は)」や「도 (も)」の結合した形態がよく見られる。「다르다 (異なる)」の場合、全 246 の用例中「-와는 (とは)」という形が 120、「-와도 (とも)」が 6 例あった。

2.2.2. 類型 4 - NP1 이 NP2 와 NP3 이 V (NP1 が NP2 と NP3 が V)

類型 4 に属する用例は、次のとおりである。内容項になる「NP3」には (24) で説明したとおり多様な類型が見られる。

- (27)a. … 네놈들과 물이 다르다 이 말이야.
 (…お前たちとは水が違う (=住む世界が違う) ということだ。)
- b. 눈은 카메라와 그 구조가 비슷하다. (目はカメラとその構造が似ている。)
- c. 131 번이 다른 버스와 동일한 색상과 모양을 갖춘 것은 …
 (131 番が他のバスと同一の色と形を備えているのは…)
 → 131 번이 다른 버스와 색상과 모양이 동일하다. (131 番が他のバスと色と形が同一だ。)

類型 4 に属する形容詞の目録は、(28) のとおりである。類型 1 と同様に、「다르다 (異なる)」「같다 (同じだ)」が高い頻度を見せている。

(28) 〈類型 4 の対称形容詞〉

다르다 (異なる) (46), 같다 (同じだ) (42), 비슷하다 (似ている) (17), 똑같다 (まったく同じだ) (7), 동일하다 (同一だ) (4), 유사하다 (類似している) (3), 가깝다 (近い) (1), 각별하다 (格別だ), 대동소이하다 (大同小異だ), 동등하다 (同等だ), 엇비슷하다 (やや似ている)

上の (26) と (28) の形容詞の目録を比較してみると、形容詞の場合、類型 1 と類型 4 の文構造を共有するものが多いことがわかる。類型 4 の対称形容詞 12 のうち、「다르다 (異なる)」「같다 (同じだ)」「비슷하다 (似ている)」「똑같다 (まったく同じだ)」「동일하다 (同一だ)」「유사하다 (類似している)」「가깝다 (近い)」「동등하다 (同等だ)」の八つが類型 1 をもっている。残りのうち「각별하다 (格別だ)」「대동소이하다 (大同小異だ)」「엇비슷하다 (やや似ている)」の三つも、本研究コーパスには用例が見えないものの、類型 1 が成立する。

・「와」格 (共同格) の先行要素

対称用言の必須補語であると同時に、意味的項となっている「NP 와 (NP と)」において、「와」格 (共同格) がとる NP 要素の統語範疇の分布は、次の〈表 2〉〈表 3〉のとおりである。

| 用言範疇 | 「와」格の先行要素 | 頻度 | 比率 |
|------|-----------|-------|-------|
| 動詞 | 名詞 | 373 | 31.8% |
| | 名詞句 | 731 | 62.3% |
| | 名詞節 | 1 | 0.1% |
| | 代名詞 | 62 | 5.3% |
| | 代名詞句 | 7 | 0.6% |
| 合計 | | 1,174 | 100% |

表 2. 対称動詞における「와」格の先行要素

| 用言範疇 | 「와」格の先行要素 | 頻度 | 比率 |
|------|-----------|-----|-------|
| 形容詞 | 名詞 | 195 | 29.0% |
| | 名詞句 | 400 | 59.4% |
| | 名詞節 | 1 | 0.1% |
| | 代名詞 | 68 | 10.1% |
| | 代名詞句 | 9 | 1.3% |
| 合計 | | 673 | 100% |

表 3. 対称形容詞における「와」格の先行要素

「와」格（共同格）の先行要素は、名詞・名詞句・名詞節・代名詞など多様な範疇にわたって現れる。特に名詞句をとる場合が60%以上と、高い占有率を見せている。「와」格の先行要素の具体的な例は、次のとおりである。

- (29)a. 명사 ? 피로 증세는 <위장병과> 관계없이 나타난다.
 (名詞：疲労の症状は〈胃腸病と〉関係なく現れる。)
- b. 명사구 ?... 무슨 일을 하더라도 <다른 나라 사람과> 경쟁하지 않을 수 없게 된다.
 (名詞句：…どんなことをしても〈他国のの人々と〉競争せずにはすまなくなる。)
- c. 명사구 ?... 자본금 규모와 점포수 등은 <전체 증권 업계의 서열, 영업 범위, 인력 스카우트 등과> 직결되기 때문이다.
 (名詞句：…資本金の規模と店舗数などは〈全体証券業界の序列、営業範囲、人材スカウトなどと〉直結するためである。)
- c. 대명사 ? <당신과> 결혼해서 한번 잘 해주지도 못하고 고생만 시켰으니.
 (代名詞：〈あなたと〉結婚して一度もよくしてやれずに苦勞ばかりかけたから。)
- d. 명사절 ? 명칭을 어떻게 정의하느냐는 것은 결국 <이 사건의 성격을 어떻게 바라보느냐와> 맞물려 있는 셈입니다.
 (名詞節：名称をどのように定義するかということは結局〈この事件の性格をどのように見るかということと〉密接な関係があるわけです。)

多くの場合、「와」格（共同格）の項とそれと対象関係を成している項とは次の(30)、(31)のように有情性の意味素性をともにする。

- (30) <対称関係にある二つの項が「有情-有情」の場合>
- a. 백운학 씨가 ... 전우였던 조병학 씨와 만날 수 있었다. (白ウンハクさんは…戦友であったチョビョンハクさんと会うことができた。)
- b. 이들이 자신을 김성기와 비교해 본다면 또한 부끄러움을 알 것이다. (彼らは自分を金ソンギと比べてみるとまた恥を知るだろう。)
- c. 최가가 사랑으로 돌입하여 노인을 업어내어 나락섬의 현감과 바꾸었다. (崔さんが舍廊¹⁴に突入して、老人を背負い出してナラク島の県監(役職名)と替えた。)
- d. '우리 의식'은 자신을 타인과 구별하여 따지지 않는 공동체 문화를 이루었다.
 (「われという意識」は自分を他人と区別して糾すことはしない共同体文化を創り出した。)

(30) は、対称関係にある二つの項が「有情-有情」の場合である。(30)aで対称関係を成している「백운학 씨 (白ウンハクさん)」と「조병학 씨 (チョビョンハクさん)」は両方とも有情名詞であり、(30)bでの「자신 (自分)」と「김성기 (金ソンギ)」も同じように有情名詞である。(30)cと(30)dにおいても同様である。

(31)〈対称関係にある 二つの項が「無情-無情」の場合〉

- a. 연극이 전파매체와 만난 사실 만큼은 … (演劇が電波媒体と会った事実だけは…)
- b. 그러나 그렇게 유용하게 사용되었던 마크 I도 요즘 값싸게 구입할 수 있는 XT 수준의 컴퓨터와 비교해 볼 때 거북이와 치타의 경주라 할 수 있다. (しかしあんなに有用に使われていたマーク Iも最近安く購入できる XTレベルのパソコンと比べると亀とチータの競走と言えらるだろう。)
- c. 우린 그걸 이십 이만 원과 바꾸어야 될 입장예요. (私たちはそれを22万ウォンと交換しなければならない立場です。)
- d. 이러한 점이 바로 주술을 … ‘신화’ 와 구별케 하는 주요 지표인 것이다. (こうした点がまさに呪術を…「神話」と区別させる重要な指標なのである。)

(31) は、対称関係にある二つの項が「無情-無情」の場合である。(31)aの「연극 (演劇)」と「전파매체 (電波媒体)」、(31)bの「마크 I (マーク I ?パソコン製品名)」と「XT 수준의 컴퓨터 (XT水準のパソコン)」、(31)cの「그저 (それ)」と「이십 이만원 (二十万ウォン)」、(31)dの「주술 (呪い)」と「신화 (神話)」は、いずれも [-有情] の素性をもつ無情名詞である。

無論、(30)aと(31)aでは文の述語である「만나다 (会う)」の意味自体が異なっている。(30)aの「만나다 (会う)」は、この動詞の一番基本的な意味として使われ、「(誰かが他の人と) 向かい合う」の意味である。しかし、(31)aは派生した意味で、「何かが他の何かと関係を結んだり連結されたりする」という意味となる。¹⁵ このように、同じ動詞であってもその意味によって有情名詞を項として要求する場合もあり、無情名詞を要求する場合もある。以下の「싸우다 (戦う・喧嘩する)」の用例も同様である。

- (32)a. 정태는 마치 현수와 싸우기라도 하려는 듯 덤벼들었다. (チョンテはまるでヒョンスと喧嘩でもしようかのようにとびかかった。)
- b. … 그들은 … 인간의 고민과 고뇌와 싸우고 있는 것이다. (…彼らは…人間の悩みや苦悩と戦っているのである。)
- c. 인간은 오류와 싸우기 위해 오류를 찾아내야 한다. (人間は誤謬と戦うために誤謬を見つけ出さなければならない。)
- d. 먹장 구름 속에서 폭우와 싸웠다. (黒雲の中で暴雨と戦った。)

(32)aのように、「싸우다 (戦う・喧嘩する)」が一番基本的な意味として使われるときには「有情-有情」の動作主を要求することが極めて多い。しかし、(32)b-(32)dのように「試練や困難などを克服するために努力する」という意味である場合には異なる様相となる。ここでは「NP1이 NP2와 싸우다 (NP1がNP2と戦う)」の構造で、「NP1」の位置には「그들 (彼ら)」や「인간 (人間)」などの有情名詞が、「NP2」の位置には「고민 (悩み)」「고뇌 (苦悩)」「고독 (孤独)」「오류 (誤謬)」「폭우 (暴雨)」「질병 (病氣)」「병마 (病魔)」「세상 (世の中)」などといっ

た「시련이나 어려움 (試練や困難)」に該当する無情名詞がくることとなる。さらに、このような「싸우다 (戦う)」ではその意味構造において「NP1이 (NP1が)」は「動作主」として、「NP2와 (NP2と)」は「対象」として解釈される。¹⁶

一方、「싸우다 (戦う・喧嘩する)」が基本的な意味で使用された用例においても「NP1이 NP2와 V (NP1がNP2とV)」での「NP1」と「NP2」が「有情-無情」で現れる(33)bのような例もある。一番基本的な意味の「결혼하다 (結婚する)」と「싸우다 (戦う・喧嘩する)」は、その行為が完成するために二つ、または二つ以上の動作主を補語として要求する。したがって、「NP1이 NP2와 결혼하다 (NP1がNP2と結婚する)」「NP1이 NP2와 싸우다 (NP1がNP2と戦う)」の「NP1」と「NP2」は「有情-有情」の素性をもつ場合が大部分である。しかし、以下の用例はそうではない。

- (33)a. 애, 넌 커피와 결혼해야겠다. (まあ、あなたはコーヒーと結婚したら…)
 b. 자신들의 그림자와 싸우는 우리들, 한 번쯤 생각해 볼 이야기가 아닌가?
 (自身の影と戦う我々、一度くらいは考えてみるべき話ではないだろうか)

(33)aでの「너 (あなた:有情)」と「커피 (コーヒー:無情)」、(33)bの「우리들 (我々:有情)」と「자신들의 그림자 (自身の影:無情)」は対称関係を成している。しかしこの用例は実際にコーヒーと夫婦の関係を結ぶという意味でもなく、影と戦うという意味でもない。これらは「커피 (コーヒー)」と「자신들의 그림자 (自身の影)」を結婚したり戦ったりすることのできる有情名詞のように比喩的に表現しているものとみなされる。意味役割の割り当てにおいては、「커피 (コーヒー)」や「자신들의 그림자 (自身の影)」に、それと対称関係を成している「너 (あなた)」や「우리들 (我々)」と同じような動作主の意味役割が付与できるのかは疑問である。このようにあるものごとを擬人化して表現している場合には、「有情-有情」の対称関係を要求する二つの項の位置に「有情-無情」関係の名詞がくることが可能である。

動詞によっては、対称関係を成している二つの項が「有情-有情」もしくは「無情-無情」という制約から比較的自由的なものもある。(34)の「연루되다 (巻き添えになる)」や「함께하다 (ともにする)」は、上記の「결혼하다 (結婚する)」「싸우다 (喧嘩する)」「바꾸다 (変える)」「비교하다 (比較する)」とは異なり、対称関係にある二つの項が「有情-無情」の場合でも意味の派生(変化)なしに自然な文を成す。

- (34)a. 그 사람은 비리와 연루되어 있다. (彼は非理と(に)巻き込まれている。)
 b. 인간은 언제나 자연과 함께해야 한다.¹⁷ (人間は常に自然と共にしなければならない。)

一方、対称関係を成している二つのNPは論理・価値の側面において「等価性(または対称性)」をもつと述べたが、(35)の用例はそうではないように見える。

- (35)a. 맥린은 …실제 인간의 뇌 속에 들어 있는 성분을 다른 생물들과 비교함으로써 다음과 같은 결론을 얻게 되었다. (マクリンは…実際に人間の脳の中に入っている成分を他の生き物たちと比較することによって次のような結論を得た。)
 b. 피로 회복은 수면 정도와 비례한다. (疲労の回復は睡眠の程度と比例する。)
 c. … 오늘날 일어나고 있는 변화는 40년 전과 비교하여 가히 혁명적인 것이기 때문

- 이다. (…今日起きている変化は40年前と比べて正に革命的であるためである。)
- d. 우리 나라 대학의 학문 수준을 세계의 선진적 대학들과 견주어 보며 염려하는 말들을 종종 듣는다. (わが国の大学の学問の水準を世界の先進的の大学と比べながら心配する話をしばしば聞く。)
- e. 한전 사장 자리를 다른 정부 투자 기관장과 단순 비교해서는 곤란하다. (韓国電力の社長の席を他の政府投資機関の長と単純に比較しては困る。)

(35)aでの「인간의 뇌 속에 들어 있는 성분 (人間の脳の中に入っている成分)」と「다른 생물들 (他の生き物たち)」、(35)bの「피로 회복 (疲労の回復)」と「수면 정도 (睡眠の程度)」は、文構造においては対称関係におかれているが、二つの項が意味的に等価性をもっているとは言い難い。これは、(35)c、(35)dにおいても同様である。しかし、(35)の用例を以下の(36)のように替えてみると、論理・価値の等価性が維持されることがわかる。(36)aでは、対称関係にある「인간의 뇌 속에 들어 있는 성분 (人間の脳の中に入っている成分)」と「다른 생물들 (他の生き物たち)」において、「다른 생물들 (他の生き物たち)」の項に「-의 뇌 속에 들어 있는 성분 (…の脳の中に入っている成分)」が現れ出ていないのである。(36)bでも「피로 회복 (疲労の回復)」の項で「-의 정도 (…の程度)」が省略されている。つまり、(36)の用例は、対称関係を成している二つの項において共通するある部分が現れ出ていない事例と考えられる。

- (36)a'. 맥린은 …인간의 뇌 속에 들어 있는 성분을 다른 생물들 (의 뇌 속에 들어 있는 성분) 과 비교함으로써... (マクリンは…人間の脳の中に入っている成分を他の生き物たち (の脳の中に入っている成分) と比較することによって…)
- b'. 피로 회복 (의 정도) 는 수면 정도와 비례한다. (疲労の回復 (の程度) は睡眠の程度と比例する。)
- c'. …오늘날 일어나고 있는 변화는 40년 전 (의 변화) 와 비교하여... (…今日起きている変化は40年前 (の変化) と比べて…)
- d'. 우리 나라 대학의 학문 수준을 세계의 선진적 대학들 (의 학문 수준) 과 견주어 보며... (わが国の大学の学問の水準を世界の先進的の大学 (の学問の水準) と比べながら…)
- e'. 한전 사장 자리를 다른 정부 투자 기관장 (의 자리) 와 단순 비교해서는 곤란하다. (韓国電力の社長の席を他の政府投資機関の長 (の席) と単純に比較しては困る。)

場合によっては、以下の(37)でわかるように「이 (これ)」、「그 (それ)」などの代名詞や「경우 (場合)」のような名詞形態が対称関係を成している項の一部、あるいは全体を指示し、代用することもある。

- (37)a. 따라서 프톨레마이오스 우주구조를 깨뜨리는 일은 그와 결부된 아리스토텔레스 우주관에 문제를 제기하는 것이었다. (したがってプトレマイオスの宇宙構造を崩すことはそれに関わっているアリストテレスの宇宙観に問題を提起するのであった。)
- b. … 국민 1인당 소비재 수입액을 일본의 경우와 비교해 보면... (…国民一人あたりの消費材の輸入額を日本の場合と比較してみると…)

(37)aの「그와(それと)」の「그(それ)」は、「프톨레마이오스 우주구조(プトレマイオスの宇宙構造)」を指示しており、(37)bの「日本の場合」の「경우(場合)」は「국민 1인당 소비재 수입액(国民一人当たりの消費材の輸入額)」を代用しているのである。

4. おわりに

本稿では、「NP와(NPと)」を補語とする韓国語の対称用言の文構造について考察してきた。対称用言の構文的特徴や統語意味構造に関する論議は、これまでの研究でも扱われてきたが、量的な分析にもとづく研究はほとんど成されていない。コーパスから実際に抽出された一定規模の用例を対象に、量的な分析作業を経て、対称用言の文構造の実情を明らかにしたという点において、本研究は意義をもつものと思う。

その結果、「NP와(NPと)」を補語にとる対称用言は、「NP1이 NP2와 V(NP1がNP2とV)」「NP1이 NP2를 NP3과 V(NP1がNP2をNP3とV)」「NP1이 NP2와 NP3을 V(NP1がNP2とNP3をV)」「NP1이 NP2와 NP3이 V(NP1がNP2とNP3がV)」の四つの類型に分類できた。対称動詞は類型1-類型4の全てが現れたが、対称形容詞は類型1と類型4のみが現れた。これは類型2と類型3には「을」格(対格)項が含まれており、形容詞と共に起できないためである。用言により、一つの類型にのみ現れるものもあり、類型1と類型2、類型1と類型4、類型2と類型3にまたがって現れるものもあった。実際の文では「NP와(NPと)」以外の項が現れない文構造も多数見られたが、修飾節や接続構造(対等節・従属節)にそのような類型が多かった。この点に関しては、「같다(同じだ)」が修飾節に抱き込まれた「…같은」の分析において若干言及した。今後より詳細に研究されねばならないが、これは後の研究に期したい。

(キム・ヒョンジョン)

<参考文献>

- 金英熙(1974)，“대칭관계와 접속조사 ‘와’”(対象関係と接続助詞「와(と)」)，『한글』(ハングル)154号，ソウル?ハングル学会。
- 金亨貞(2006)，“‘와’ 보충어의 분포 및 특성”(「와(と)」補語の分布及び特徴)，『한글』(ハングル)274号，ソウル?ハングル学会。
- 南基心(1990)，“토씨 ‘와/과’의 쓰임에 대하여”(助詞「와/과(と)」の用法について)，『東方学誌』66集，ソウル?延世大学 国学研究院。
- 南潤珍(1993)，“비교와 비유”(比較と比喩)，『국어사 자료와 국어학의 연구』(国語史資料と国語学の研究)，ソウル?文学と知性社。
- 徐尙揆・韓榮均(1999)，『국어정보학 입문』(国語情報学入門)，ソウル?太学社。
- ヤンジョンソク(1996)，“‘-와/과’ 문장의 통사구조”(「와/과(と)」文の統語構造)，『국어문법의 탐구』3(国語文法の探究3)，ソウル?太学社。
- 許雄(1995)，『20세기 우리말의 형태론』(20世紀我が言葉の形態論)，ソウル?セム文化社。
- 許雄(1995)，『20세기 우리말의 통어론』(20世紀我が言葉の統語論)，ソウル?セム文化社。
- ホンジェソン(1986)，“현대 한국어 대칭구문 분석의 한 국면”(現代韓国語の対称構文分析の一局)，『東方学誌』50集，ソウル?延世大学 国学研究院。
- (1960)『조선어문법 1(어음론, 형태론)』(朝鮮語文法 1(語音論, 形態論))，平壤?

- 科学院 言語文学研究所 (1990 年塔出版社影印本を使用).
- 寺村秀夫 (1982), 『日本語のシンタクスと意味』第 I 巻, 東京 ?くろしお出版.
- Somers, H. L.(1987), *Valency and case in computational linguistics*, Edinburgh University Press.
- Levin, Beth.(1993), *English verb classes and alternations : a preliminary investigation*, Chicago : University of Chicago Press.

< 辞書 >

- 国立国語研究院編 (1999), 『標準国語大辞典』, ソウル ?斗山東亜.
- 延世大学校言語情報研究院編 (1998), 『延世韓国語辞典』, ソウル ?斗山東亜.

< 参考資料 >

- 文化観光部 / 国立国語研究院 (1999), “21 世紀世宗計画均衡コーパス, 研究・教育用現代国語均衡コーパス”.

(Endnotes)

- 1 本稿で用いられた「項」や「補語」という概念は、該当要素が文の述語との関係で意味的な必要によって現れるのか、統語構造上の完全性を満たすために要求されるのかということと関連するものである。これについての詳細は金亨貞 (2006 : 100) を参照のこと。
- 2 「인간은 오류와 싸우기 위해 오류를 찾아 낸다 (人間は誤謬と戦うために誤謬を見つけ出す。)」では、NP1 (= 人間) と NP2 (= 誤謬) がそれぞれ有情と無情となっており、有情性の素性を異にする。これは「싸우다 (戦う)」の意味が基本的意味から派生した意味になり、「何かを克服したり耐え抜くために努力する」という意味になったのである。この場合、NP1 の「인간 (人間)」には行動主の意味役割が、NP2 の「오류 (誤謬)」には対象の意味役割が与えられる。
- 3 金亨貞 (2006 : 107) を参照のこと。
- 4 標本抽出に関しては、徐尙揆・韓栄均 (1999 : 48-77) を参照のこと。
- 5 用例の検索や KWIC 索引の作成にはアメリカの GEORGETOWN 大学博士課程の張碩培先生の開発した YCONC というツールを使用し、補助的に MONOCONC を利用した。
- 6 文の主語である「NP1 이」において「NP1」が団体名詞である場合には「NP 에서 (NP で)」の形で現れることもある。
- 7 本稿では、基本的に実際のコーパスに現れた用例をそのまま提示することを原則とする。紙面の制約で調節が必要な場合には、必須要素以外の付加的要素を「…」と省略表記する。文構造の種類の典型的な例を示すために、ここでは実際の用例を若干加工した。
- 8 目録において同じ頻度の単語は、先頭の単語にのみ表記するものとする。「일치하다 (一致する)」は前の「동떨어지다 (かけ離れる)」と同一頻度である。
- 9 (12) の (b), (c) の例文は典型を示すための作例である。

- 10 類型の分類については、金亨貞 (2006 121-124) を参照されたい。
- 11 本研究に用いられたコーパスでは「NP 와 아울러서」の用例は見られなかった。
- 12 金亨貞 (2006) を参照のこと。
- 13 南潤珍 (1993) は、「영희가 키가 순희와 같다 (ヨンヒは身長がスンヒと同じだ)」「북한 어린이들이 생김새가 우리와 같다 (北朝鮮の子供は格好が我々と同じだ)」といった「比較」の意味をもつ文を「身長」「格好」などの比較内容の類型により [同一] と [類似] に分けている。すなわち、「比較の内容が提示する意味役割が段階化できたり、ある一点に限定される場合 (背丈・順序・結果・事実…)」は [同一]、「比較の内容が指示する意味役割が抽象的で段階化できなかつたり、ある一点に固定するのが難しい場合 (顔・経験・健康・善良さ)」は [類似] と見ている。
- 14 「舍廊」は、「主人が寝起きする部屋を接客にも使う居間」を指す。少し昔の言葉である。
- 15 この語釈は『연세한국어사전』(延世韓国語辞典) を参照のこと。
- 16 南基心 (1990 234) は、「싸우다 (戦う・喧嘩する)」という対称用言を述語とする文の主語は行為者になりうる [+ 人性]、または [+ 有情] の意味素性をもつ体言でなければならず、「우리는 거센 파도와 싸우면서 항해를 계속했다 (我々は激しい波と戦いながら航海を続けた)」のように、その条件を充たしていないものは体言接続句の形を成すことはできないと述べている。すなわち、上記の文を「* 거센 파도와 우리 (우리와 거센 파도) 는 싸우면서 항해를 계속했다 (激しい波と我々/我々と激しい波) は戦いながら航海を続けた」のように接続句の形に変えると非文法的な文になる。「파도 (波)」が [- 有情]、または [- 人性] の意味素性を持っているので、体言接続句全体の統語的素性が [+ 有情] や [+ 人性] にはなりえないということである。対称関係を成している二つの項が「有情 - 無情」の対立を見せる「싸우다 (戦う)」の文構造において、体言接続句の形への置き換えに制限があるというのは正しい指摘だと思われる。しかし、本稿では「우리는 거센 파도와 싸우면서 항해를 계속했다 (我々は激しい波と戦いながら航海を続けた)」の「싸우다 (戦う)」は、「싸우다 (戦う)」自体の意味が「試練や困難などを克服するために努力する」に変わったのであると解釈する。したがって、動詞の意味構造自体において、「NP2」の位置に無情名詞、中でも「試練や困難」にあたる「고뇌 (苦悩)」「오류 (誤謬)」「폭우 (暴雨)」「파도 (波)」「질병 (疾病)」などがくるのである。
- 17 「함께하다 (ともにする)」の用例は筆者の作った例文である。